

収録・解説 酒井董美

語り手 大原寿美子
（明治40年生まれ）
昭和54年9月22日収録

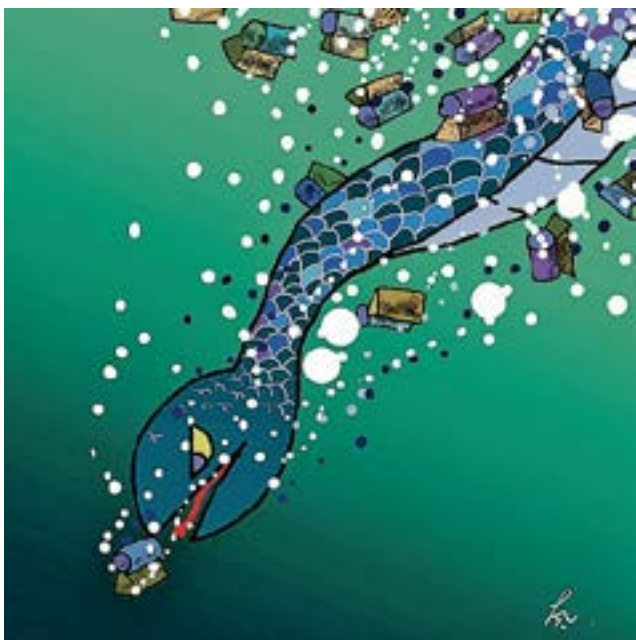
あらすじ

昔、狛師が山へ行った
ら、その日は何一つも獲
物が捕れません。「何か
ないかなあ」と考えてい
たら、そこにいい男がい
ました。それは蛇が男に
化けていたのです。狛師
は男に尋ねました。「今
日は狛がない日じゃが、
鳥か兎かおるところを
知らあせんかしらん」教
えてあげる代わり、おま
えの家の下手のものをく
れるか」と男は答えまし
た。

狛師が考えても、家の
下手なら榎の木しかな
いのでやってもよと思
って「やるげえ教えてえ
な」と言いました。「こ

蛇婿入り①

（八頭郡智頭町波多）



イラスト・福本隆男

蛇が狛師に謎めいた要求

狛をして帰りました。「家
の下手のものをやる約束
をしたが、榎の木をやら
ないけん」と言つと、
お母さんが「今日は娘が
い」と言いました。
「榎の木のことじゃろ
う」「違う。娘のことじ
や。わしの嫁にしよう
と。思うんじゃ」「娘とは知
らず約束したのじゃけ

え、こらえんくれえ」とた。それを沈めようとし
狛師がいくら頼んでも侍
は聞きません。しかたな
ば「一つ浮きして、みんな
く娘に嫁に行つてくれ」
と言いますと、悲しんで
れきつてしまい、堤の上
に上がって、ぐっすり昼
寝をしてしまいました。
それを見た娘は針を出
し、蛇の鱗を一つ一つ
起こして、その下へみん
な針を刺して蛇を退治し
せえ」「桐の枕を千と針
を千本、櫃に入れてくれ」
と娘が言いますので、狛
師は言つとおりにしてや
りました。

解説

この話は、蛇の役割が
常とつ的な田の水を当て
えに来ました。「おまえ
のすみかはどこじゃ」「こ
の谷の奥の大きな堤のあ
るそこじゃ」と言います。
いた要求をするのであ
る。

（ここから、蛇は農業神
や嫁の荷物じゃで、これ
を沈めにや嫁入りはでき
ん」と言つて、櫃の中か
存在として考えればよい
中へ投げ入れました。
侍が急に蛇の姿に変わ
って堤に飛び込みまし

（元鳥取短期大学教授）

（水曜日に掲載）